

特定の研究計画書によらない学術論文

次に示す論文は特定の研究計画書に基づく調査結果ではなく、おおむね外部の研究者との共同研究によるもの、あるいは放影研を著者とする論文、ならびに予備調査に基づく論文である。従って、特定の調査研究課題の章に含めていないので、ここで部別にリストした。

理事および主席研究員

- ◆ Double EB, Boice JD: In memoriam—Seymour Jablon (June 2, 1918–April 9, 2012). *Radiat Res* 2012 (September); 178(3):246–7.
- ◆ Okubo T: Long-term epidemiological studies of atomic bomb survivors in Hiroshima and Nagasaki: Study populations, dosimetry and summary of health effects. *Radiat Prot Dosimetry* 2012 (October); 151(4):671–3.
- ◆ Okubo T: Obituary: Itsuzo Shigematsu. *J Radiol Prot* 2012 (September); 32(3):359.
- ◆ 大久保利晃 (編) : 平成 23 年度厚生労働省委託事業 原爆症調査研究事業報告書。2012 (September), 92 p.
- ◆ Yasumura S, Hosoya M, Yamashita S, Kamiya K, Abe M, Akashi M, Kodama K, Ozasa K, for the Fukushima Health Management Survey Group: Study protocol for the Fukushima health management survey. *J Epidemiol* 2012 (September); 22(5):375–83.

臨床研究部 (広島)

- ◆ 碓井静照、松村 誠、柳田実郎、陶山昭彦、立川佳美、井上典子、木谷由希絵、江川美砂、久保田益亘、中原英樹、津村裕昭、岡田武規、石田邦夫、東條環樹、向井みどり、中元一望、答島裕子、篠田英雄、福原美百合、河野直樹、山口順之、森 博之 : 第 18 回在北米被爆者健康診断成績。広島医学 2012 (May); 65(5):357–82.

臨床研究部 (長崎)

- ◆ 今泉美彩 : 放射線と甲状腺疾患—原爆被爆者の知見から。最新医学・別冊 2012 (October); 235–41.
- ◆ 今泉美彩、山下俊一 : 放射線被曝と甲状腺機能異常症。カレントセラピー 2013 (January); 31(1):92.

放射線生物学／分子疫学部

- ◆ Fujiki H, Imai K, Nakachi K, Shimizu M, Moriwaki H, Suganuma M: Challenging the effectiveness of green tea in primary and tertiary cancer prevention. *J Cancer Res Clin Oncol* 2012 (August); 138(8):1259–70.
- ◆ Otonari J, Nagano J, Morita M, Budhathoki S, Tashiro N, Toyomura K, Kono S, Imai K, Ohnaka K, Takayanagi R:

Neuroticism and extraversion personality traits, health behaviours, and subjective well-being: the Fukuoka Study (Japan). *Qual Life Res* 2012 (December); 21(10):1847–55.

- ◆ Taga M, Eguchi H, Shinohara T, Takahashi K, Ito R, Yasui W, Nakachi K, Kusunoki Y, Hamatani K: Improved PCR amplification for molecular analysis using DNA from long-term preserved formalin-fixed, paraffin-embedded lung cancer tissue specimens. *Int J Clin Exp Pathol* 2013 (January); 6(1):76–9. (RR 6-12)
- ◆ Taga M, Mechanic LE, Hagiwara N, Vähäkangas KH, Bennett WP, Alavanja MCR, Welsh JA, Khan MA, Lee A, Diasio R, Edell E, Bungum A, Jang JS, Yang P, Jen J, Harris CC: EGFR somatic mutations in lung tumors: Radon exposure and passive smoking in former- and never-smoking U.S. women. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev* 2012 (June); 21(6):988–92.
- ◆ Watanabe T, Kuramochi H, Takahashi A, Imai K, Katsuta N, Nakayama T, Fujiki H, Suganuma M: Higher cell stiffness indicating lower metastatic potential in B16 melanoma cell variants and in (–)-epigallocatechin gallate-treated cells. *J Cancer Res Clin Oncol* 2012 (May); 138(5):859–66.

疫学部 (広島)

- ◆ Sakata R, Kleinerman RA, Mabuchi K, Stovall M, Smith SA, Weathers R, Wactawski-Wende J, Cookfair DL, Boice JD, Jr., Inskip PD: Cancer mortality following radiotherapy for benign gynecologic disorders. *Radiat Res* 2012 (October); 178(4):266–79.

疫学部 (長崎)

- ◆ 近藤久義、早田みどり、三根真理子、横田賢一 : 長崎市原爆被爆者の癌罹患率の被曝状況による比較と推移 (1970–2007 年)。長崎医学会雑誌 2012 (September); 87(特集号): 191–4. (第 53 回原子爆弾後障害研究会講演集、平成 24 年)

情報技術部

- ◆ Katayama H: RERF databases and implications for future studies. *Radiat Prot Dosimetry* 2012 (October); 151(4):677–81.

特定の研究計画書によらない学会発表

次の学会発表は特定の研究計画書に関連していないが予備調査に基づくもの、または外部機関との共同研究あるいは全般的な研究情報である。部別にリストした。

理事および主席研究員

- ❖ Douple EB。放射線リスクに関するより効果的な情報伝達について放影研および福島を含む原発事故から学んだ教訓。第58回放射線影響学会、2012年9月30日－10月3日。プエルトリコ、サンファン
- ❖ 児玉和紀。放射線影響研究パートナーシップ・プログラム—久留米大学バイオ統計センターとの研究協力について。第11回久留米大学バイオ統計学フォーラム、2013年1月18－19日。久留米
- ❖ 中村 典。広島・長崎の原発被害から学ぶもの。日本環境変異原学会シンポジウム、2012年5月26日。東京
- ❖ 大久保利晃。放射線被曝がもたらす発がんリスク。第50回日本癌治療学会学術集会、2012年10月26日。横浜

疫学部（広島）

- ❖ 小笹晃太郎、福島若葉、大藤さところ。ワクチンによるインフルエンザの予防と対策に関する啓発。第71回日本公衆衛生学会総会、2012年10月24－26日。山口

統計部

- ❖ 中島栄二。原発被爆者における放射線リスクの統計解析：放射線影響研究所での取り組みと福島第一原発事故。2011年度統計関連学会連合会大会、2012年9月9－12日。札幌

情報技術部

- ❖ 片山博昭、井岡亜希子、津熊秀明。社会経済指標とGISを利用した大腸がん検診の地域絞り込みについて。第34回国際がん登録協議会学術総会、2012年9月17－19日。アイルランド、コーク

所内学術講演およびセミナー

2012年4月1日－2013年3月31日

本年度下記の口頭発表（日付順）が研究所内外の研究者によって放影研広島研究所で行われた。

Alina V. Brenner 米国国立がん研究所（NCI）がん疫学・遺伝学部門放射線疫学分野研究員、演題「NCIにおけるチェルノブイリ後の甲状腺がんの分子遺伝学研究」4月16日

三角宗近 放射線影響研究所統計部研究員、第269回広島統計談話会、演題「放射線疫学研究におけるリスク推定値への線量不確実性の影響について」5月11日

Ke-Hai Yuan 米国ノートルダム大学心理学部教授、第270回広島統計談話会、演題「多くの変数がある場合の構造方程式モデルにおける尤度比統計量の経験的な修正」7月6日

定金敦子 自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門講師、演題「飲酒の量、頻度、パターンと死亡のリスク」7月13日

Brandy M. Ringham 米国コロラド大学コロラド公衆衛生大学院生物統計・情報科学部大学院生・助教、演題「連続選別試験の診断正確性対比較での決定誤差を減少させることについて」9月3日

Daniel O. Stram 米国南カリフォルニア大学予防医学部生物統計部門教授、演題「核施設近辺の集団のがんリスク解析：第I期」9月7日

Harry M. Cullings 放射線影響研究所統計部長、第271回広島統計談話会、演題「原爆被爆者の寿命調査コホートにおける安定型染色体異常の探索的空間分析」9月21日

Chih-Chieh Wu 米国テキサス大学 MD アンダーソンがんセンター疫学部助教授、演題「家族調査におけるがんリスク推定のための感受性遺伝子モデルの構築について」9月24日

伊森晋平 広島大学大学院理学研究科数学専攻博士課程後期、第272回広島統計談話会、演題「GEEにおけるQICの性質について」11月2日

Peter W.S. Chang 台湾、台北医学大学付属病院教授、台湾放射線防護協会会長、演題「低線量・低線量率放射線被曝を受けた台湾のコホート集団の追跡調査（1992年－2012年）」11月5日

Young Min Kim 米国ニューヨーク州立大学バッファロー校生物統計学部博士研究員、演題「時系列の累進的ブロック経験的尤度法について」11月12日

福井敬祐 広島大学大学院理学研究科数学専攻博士課程後期、第273回広島統計談話会、演題「CV規準を用いた高次元多変量線形回帰モデルの変数選択法」11月30日

Reid D. Landes 米国アーカンソー大学メディカルサイエンス（UAMS）生物統計学准教授、演題「動物致死実験の線量減効率の推定量に対する忠告について」12月3日

Richard Wakeford 英国マンチェスター大学ドルトン原子力研究所疫学客員教授（ICRP第一専門委員会委員、Journal of Radiation Protection 編集主幹）、演題「低レベル放射線被曝のがんリスクについて：最近の研究成果と将来的展望」12月10日

古川恭治 放射線影響研究所統計部副主任研究員、第274回広島統計談話会、演題「不完全な疫学データの扱い方」12月21日

山村麻理子 広島大学教育学研究科講師、第275回広島統計談話会、演題「ロジスティック回帰分析による解析結果の解釈方法について」2月1日

春田大輔 社会医療法人春回会井上病院循環器内科医員、演題「J波症候群（早期再分極症候群およびブルガダ症候群）の疫学」3月25日

放影研研究懇話会（2012年度）

放影研研究懇話会（コロキウム）は、正式なセミナーではなく、主として現在進行中あるいは予備的研究について発表し、所内研究者からの建設的意見を得ることを目的とする。

赤星正純 長崎臨床研究部長、演題「放影研における心電図研究」4月20日

Eric J. Grant 疫学部副部長、演題「LSSにおける放射線および生活習慣因子の尿路上皮癌への影響」6月1日

Harry M. Cullings 統計部長、演題「残留放射線による被爆者線量の推定」6月8日

浅川順一 遺伝学部主任研究員、演題「全ゲノム塩基配列解析を用いた遺伝的影響調査は可能か？」9月28日

京泉誠之 放射線生物学／分子疫学部 NIAID プロジェクト研究員、演題「幹細胞、老化、放射線」10月26日

坂田 律 疫学部副主任研究員、演題「放射性降下物を含んだ雨の影響：LSS ベースライン調査情報に基づく解析」11月16日

高橋郁乃 臨床研究部研究員、演題「放射線による微小循環への影響：成人健康調査に基づく横断研究」12月21日

古川恭治 統計部研究員、演題「リスク解析における線量反応推定の改善—なぜ『線形閾値なし』モデルでは不都合なのか？」1月25日

放影研職員の受賞

2012年4月1日—2013年3月31日

東京で開催された第48回日本循環器管理研究協議会総会（日本循環器病予防学会総会）で、**児玉和紀** 主席研究員が第27回日本心臓財団予防賞（日本循環器管理研究協議会賞）を受賞。6月15日

名古屋で開催された第35回日本高血圧学会総会で、**高橋郁乃** 広島臨床研究部研究員（疫学部兼務）が第3回 Hypertension Research Award 優秀賞を受賞。9月20—22日

東京で開催された第65回日本医師会設立記念医学会大会で、**大石和佳** 広島臨床研究部部長代理が平成24年度日本医師会医学研究奨励賞を受賞。11月1日

広島で開催された第24回日本老年医学会中国地方会で、**高橋郁乃** 広島臨床研究部研究員（疫学部兼務）が若手奨励賞を受賞。11月24日

2011年3月11日に発生した東日本大震災における厚生労働省健康局の所管事業での貢献に対して、**放影研** が厚生労働大臣感謝状を贈呈された。3月11日

龍角洋行 広島臨床研究部臨床検査科主任技師が広島県危険物安全協会連合会より平成24年度広島県優良危険物取扱者表彰を受賞

平成 24 年度 外部資金研究一覧表

外部機関名称	件数	研究資金 (資金拠出機関からの入金額)
厚生労働省	8	¥7,450,000
文部科学省	12	¥32,500,000
環境省	1	¥2,200,000
公益信託 日本動脈硬化予防研究基金	1	¥2,000,000
独立行政法人 国立がん研究センター	1	¥1,040,000
公益財団法人 喫煙科学研究財団	1	¥2,000,000
公益財団法人 骨粗鬆症財団	1	¥737,030
一般社団法人 日本化学工業協会	1	¥3,611,367
独立行政法人 放射線医学総合研究所	1	消耗品の現物支給
米国立がん研究所 (NCI) 契約	1	¥19,646,517
米国立アレルギー感染症研究所	1	¥177,597,554
総合計	29	¥248,782,468

- 注) ・間接費を含む。
 ・研究分担者の配分額を含む。
 ・複数の部の研究員が一つの包括的な外部資金によって個別に資金を受領している場合が幾つかある。
 このような場合、これら個別の資金を複数の外部資金として数えている。

平成 24 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	研究グループのチーフまたは担当の主任研究者	委託組織の名前と場所および	放影研における研究担当者	期間	研究資金
臨床研究部 (広島) 脂肪性肝疾患の進展促進要因に関する前向きコホート研究	文部科学省 科学研究費助成事業 「基盤研究 (C)」 研究代表者 大石 和佳 放射線影響研究所臨床研究部部長代理	放射線影響研究所臨床研究部部長代理		2012 年 4 月 1 日 - 2013 年 3 月 31 日	直接経費 ¥1,500,000 間接経費 ¥450,000
特定健診・保健指導におけるメタボリックシンドロームの診断・管理のエビデンス創出に関する横断・縦断研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業」 研究代表者 門脇 孝 東京大学大学院医学系研究科教授		山田 美智子 研究協力者 立川 佳美	2012 年 4 月 1 日 - 2013 年 3 月 31 日	¥1,150,000
大規模コホート共同研究の発展による危険因子管理の優先順位の把握と個人リスク評価に関するエビデンスの構築	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業」 研究代表者 岡村 智教 慶應義塾大学医学部 教授		山田 美智子	2012 年 4 月 1 日 - 2013 年 3 月 31 日	¥1,800,000
成人健康調査集団における動脈硬化・認知症ならびに ADL の評価	公益信託 日本動脈硬化予防研究基金 「平成 24 年度研究助成」 研究組織委員長 上島 弘嗣 滋賀医科大学生活習慣病予防センター特任教授 研究代表者 山田 美智子 放射線影響研究所臨床研究部健診科長			2012 年 4 月 1 日 - 2013 年 3 月 31 日	¥2,000,000 広島大学の共同研究者への配分額は、上記の研究資金に含まれている。
放射線の体組成へ及ぼす影響ならびに動脈硬化性疾患との関連性	文部科学省 科学研究費助成事業 「若手研究 (B)」 研究代表者 立川 佳美 放射線影響研究所臨床研究部健診科 副主任研究員			2012 年 4 月 1 日 - 2013 年 3 月 31 日	直接経費 ¥700,000 間接経費 ¥210,000
高齢者の動脈硬化性疾患と骨折リスクー 広島コホート調査	公益財団法人 骨粗鬆症財団 リリー研究助成金 研究代表者 高橋 郁乃 放射線影響研究所臨床研究部臨床検査科研究員			2012 年 1 月 1 日 - 2012 年 12 月 31 日	¥737,030
遺伝学部 放射線被曝事故に備えた染色体ネットワークの構築	独立行政法人 放射線医学総合研究所 染色体ネットワーク会議 主任研究者 数藤 由美子 放射線医学総合研究所緊急被ばく医療研究センター被ばく線量評価部生物線量評価室長		児玉 喜明	2012 年 6 月 15 日 - 2013 年 3 月 31 日	消耗品の現物支給 (¥350,000 相当)。

平成 24 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	研究グループのチーフまたは担当の主任研究者	委託組織の名前と場所および	放影研における研究担当者	期間	研究資金
遺伝学部 個体内における電離放射線誘発突然変異成立過程の解明	文部科学省 「基盤研究 (S)」 研究代表者 三谷 啓志 科教授 東京大学大学院新領域創成科学研究	科学研究費助成事業	野田 朝男	2012 年 4 月 1 日 - 2013 年 3 月 31 日	直接経費 ¥1,900,000 間接経費 ¥570,000
高密度マイクロアレイ CGH 法を用いた原爆放射線の遺伝的影響調査	文部科学省 「基盤研究 (B)」 研究代表者 小平 美江子 化学研究室長	科学研究費助成事業	浅川 順一 (統計部) 古川 恭治 中村 典 (同部顧問) 連携研究者	2012 年 4 月 1 日 - 2013 年 3 月 31 日	直接経費 ¥6,700,000 間接経費 ¥2,010,000
日本人に特有な XPA 遺伝子創始者変異ヘテロ保因者の皮膚がんリスクの評価	文部科学省 (C) 「基盤研究 (C)」 研究代表者 平井 裕子 学研究室研究員	科学研究費助成事業	児玉 喜明 中村 典 (同部顧問)	2012 年 4 月 1 日 - 2013 年 3 月 31 日	直接経費 ¥1,200,000 間接経費 ¥360,000
次世代シーケンサーを用いた放射線のラット未熟卵母細胞に及ぼす遺伝的影響評価	文部科学省 (C) 「基盤研究 (C)」 研究代表者 佐藤 康成 学研究室研究員	科学研究費助成事業	小平 美江子 浅川 順一 連携研究者 中村 典 (同部顧問)	2012 年 4 月 1 日 - 2013 年 3 月 31 日	直接経費 ¥3,800,000 間接経費 ¥1,140,000
胎児期被ばくマウスに生じる染色体異常の組織による違いの解明	文部科学省 (B) 「若手研究 (B)」 研究代表者 濱崎 幹也 学研究室研究員	科学研究費助成事業	濱崎 幹也 平井 裕子 児玉 喜明 中村 典 (同部顧問)	2011 年 9 月 1 日 - 2012 年 8 月 31 日	直接経費 ¥1,300,000 間接経費 ¥390,000 ¥3,611,367
全身の組織・細胞を標的として、 <i>in situ</i> で突然変異細胞を検出することができる遺伝子改変マウスの開発	一般社団法人日本化学工業協会 長期自主研究 研究代表者 野田 朝男 放射線影響研究所遺伝学部長	放射線影響研究所遺伝学部長	Evan B. Douple (主席研究員) 京泉 誠之 今井 一枝 伊藤 玲子 榎村 順子 吉田 健吾 大石 和佳 小笹 晃太郎 (疫学部) 古川 恭治 (統計部) 三角 宗近 (統計部)	2009 年 10 月 1 日 - 2014 年 9 月 30 日	直接経費 ¥156,151,128 間接経費 ¥21,446,426
放射線生物学／分子疫学部 原爆被爆者における免疫老化とその他の放射線被曝後影響の調査	米国国立アレルギー-感染症研究所 主任研究者 中地 敬 共同主任研究者 楠 洋一郎 林 奉権 分子疫学部長、放射線生物学／分子疫学部長	放射線影響研究所顧問およびプロジェクト代表者 放射線影響研究所放射線生物学／放射線影響研究所放射線生物学／分子疫学部長			

平成 24 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	研究グループのチーフまたは担当の主任研究者	委託組織の名前と場所および	放影研における研究分担者	期間	研究資金
放射線生物学／分子疫学部 原爆被爆者の長期追跡に基づく炎症関連疾患発生の分子疫学研究	文部科学省 科学研究費助成事業 「基盤研究 (B)」 研究代表者 林 奉権 放射線影響研究所放射線生物学／分子疫学部副部長	放射線影響研究所放射線生物学	連携研究者 中地 敬 (放影研顧問およびプロジェクト代表研究者)、小川 貴彦	2012 年 4 月 1 日 - 2013 年 3 月 31 日	直接経費 ¥4,500,000 間接経費 ¥1,350,000 東京大学の共同研究者への配分額は、上記の研究資金に含まれている。
放射線障害と宿主要因からみた発がんの分子基盤とその臨床応用に関する研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「第 3 次対がん総合戦略研究事業」 研究代表者 安井 弥 広島大学大学院医歯薬保健学研究院分子病理学研究室教授	放射線影響研究所放射線生物学	楠 洋一郎 林 奉権	2012 年 4 月 1 日 - 2013 年 3 月 31 日	¥2,500,000
喫煙の免疫および炎症関連生体指標と生活習慣病発生に及ぼす影響の分子疫学研究	公益財団法人 喫煙科学研究財団 研究代表者 林 奉権 放射線影響研究所放射線生物学／分子疫学部副部長	放射線影響研究所放射線生物学	高橋 規郎 (副理事長室付顧問) 大石 和佳 (臨床研究部) 三角 宗近 (統計部) 村上 秀子	2012 年 4 月 1 日 - 2013 年 3 月 31 日	¥2,000,000
低線量放射線は心血管疾患発症の原因と成りうるか? 一動物実験による検証	環境省 「平成 24 年度原子力災害影響調査等事業 (放射線の健康影響に係る調査事業)」 研究代表者 丹羽 保晴 放射線影響研究所放射線生物学／分子疫学部細胞生物学研究室副主任研究員	放射線影響研究所放射線生物学	高橋 規郎 (副理事長室付顧問) 大石 和佳 (臨床研究部) 三角 宗近 (統計部) 村上 秀子	2012 年 10 月 18 日 - 2013 年 3 月 7 日	¥2,200,000
疫学部 (広島) 原爆被爆者の乳がんに関する免疫組織学的疫学研究	文部科学省 科学研究費助成事業 「基盤研究 (C)」 研究代表者 小笹 晃太郎 放射線影響研究所疫学部部長	放射線影響研究所放射線生物学	連携研究者 小笹 晃太郎	2012 年 4 月 1 日 - 2013 年 3 月 31 日	直接経費 ¥1,500,000 間接経費 ¥450,000
後期高齢期・超高齢期に達することに関連する生活習慣要因のコホート研究による検討	文部科学省 科学研究費助成事業 「基礎研究 (B)」 研究代表者 玉腰 暁子 北海道大学大学院医学研究科予防医学講座公衆衛生学分野教授	北海道大学大学院医学研究科予防医学講座公衆衛生学分野教授	連携研究者 小笹 晃太郎	2012 年 4 月 1 日 - 2013 年 3 月 31 日	連携研究者のため、研究資金の配分なし。
放射線への曝露による発がんの分子機構に関する研究	独立行政法人 国立がん研究センターがん研究開発費 主任研究者 山下俊一 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科原爆後障害医療研究施設分子医療部門分子診断分野教授	国立がん研究センターがん研究開発費	小笹 晃太郎	2012 年 4 月 1 日 - 2013 年 3 月 31 日	¥1,040,000

平成 24 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	研究グループのチーフまたは担当の主任研究者	委託組織の名前と場所および	放影研における研究分担者	期間	研究資金
疫学部 (広島) 予防接種に関するワクチンの有効性・安全性等についての分析疫学研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金「创新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業」研究代表者 廣田 良夫 大阪市立大学大学院医学研究科教授	委託組織の名前と場所および 研究グループのチーフまたは担当の主任研究者	小笹 晃太郎	2012年4月1日 - 2013年3月31日	¥400,000
がんの実態把握とがん情報の発信に関する研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金「第3次対がん総合戦略研究事業」研究代表者 祖父江 友孝 大阪大学大学院医学系研究科社会環境医学講座教授		杉山 裕美 研究協力者 片山 博昭 (情報技術部)	2012年4月1日 - 2013年3月31日	¥800,000
疫学部 (長崎) がんの実態把握とがん情報の発信に関する研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金「第3次対がん総合戦略研究事業」研究代表者 祖父江 友孝 大阪大学大学院医学系研究科社会環境医学講座教授		早田 みどり 研究協力者 片山 博昭 (情報技術部)	2012年4月1日 - 2013年3月31日	¥800,000
既存統計資料に基づくがん対策進捗の評価手法に関する実証的研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金「がん臨床研究事業」研究代表者 津熊 秀明 大阪府立成人病センターがん予防情報センター長		研究協力者 早田 みどり	2012年4月1日 - 2013年3月31日	研究協力者のため、研究資金の配分なし。
情報技術部 カザフスタンのセミパラチンスク核実験場やウラン鉱山地域の被ばく線量評価と健康影響	文部科学省 科学研究費助成事業「基盤研究 (B)」研究代表者 星 正治 広島大学原爆放射線医科学研究所名誉教授		片山 博昭	2012年4月1日 - 2013年3月31日	直接経費 ¥300,000 間接経費 ¥90,000
その他 原爆被爆者におけるがんの疫学的研究支援	米国立がん研究所 (NCI) 契約 米国メリーランド州ベセスダ、米国立がん研究所 NCI 契約 N01-CP-31012 主任研究者 児玉 和紀 放射線影響研究所 首席研究員 共同主任研究者 Roy E. Shore 放射線影響研究所 副理事 兼 業務執行理事		中村 典 (遺伝学部顧問) 早田 みどり (長崎疫学部) Harry M. Cullings (統計部) 古川 恭治 (統計部) 片山 博昭 (情報技術部) 平井 裕子 (遺伝学部) 楠 洋一郎 (放射線生物学/分子疫学部) 濱谷 清裕 (放射線生物学/分子疫学部)	2008年12月1日 - 2013年11月30日	直接経費 ¥13,671,902 間接経費 ¥5,974,615

平成 24 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	委託組織の名前と場所および 研究グループのチーフまたは担当の主任研究者	放影研における研究分担者	期間	研究資金
その他 放射線被曝は循環器疾患のリスクを上昇させるか？—動物実験による検証	文部科学省 科学研究費助成事業 「基盤研究 (C)」 研究代表者 高橋 規郎 放射線影響研究所副理事長室付顧問	大石 和佳 (臨床研究部) 丹羽 保晴 (放射線生物学/分子疫学部) 連携研究者 Wan-Ling Hsu (統計部)、村上 秀子 (放射線生物学/分子疫学部)	2012 年 4 月 1 日 - 2013 年 3 月 31 日	直接経費 ¥1,600,000 間接経費 ¥480,000
総 合 計				¥218,782,468

平成 24 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
臨床研究部 (広島) NIHON-SEA (Nippon-Honolulu-Seattle) プログラム (認知症の罹患率と発生率)	山田 美智子		笠置 文善 (放射線影響協会) 佐々木 英夫 (広島原爆障害対策協議会) 三森 康世 (広島国際大学) White L (ホノルル加齢調査) Larson E (米国シアトル保健協同組合健康調査センター)	1992
原爆被爆者における眼科追跡調査	飛田 あゆみ (長崎臨床研究部)	立川 佳美 中島 栄二 (統計部) 大石 和佳 赤星 正純 (長崎臨床研究部)	鎌石 和男 (八千代病院) 横山 知子 (広島大学) 高松 倫也 (広島大学) 柳 昌秀 (広島大学) 木内 良明 (広島大学) 隈上 武志 (長崎大学) 上松 聖典 (長崎大学) 築城 英子 (長崎大学) 深澤 祥子 (長崎大学) 北岡 隆 (長崎大学) 皆本 敦 (みなもと眼科クリニック)	2010
日本人原爆被爆者集団における乳がんおよび子宮内膜がんのコホート内症例対照研究	大石 和佳	Grant EJ (疫学部) Cologne JB (統計部) 中地 敬 (放影研顧問およびプロジェクト代表研究者) 中島 栄二 (統計部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部)	鎌石 和男 (八千代病院) Sharp GB (米国国立アレルギー感染症研究所) 江口 英孝 (埼玉医科大学) 和泉 志津恵 (大分大学) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会) Key TJ (英国インペリアルがん研究基金) Stevens RG (米国コネチカット大学保健センター)	2002
凍結血清およびゲノム DNA を用いた萎縮性胃炎および胃がんに関する症例対照研究：胃がんに伴う慢性胃炎の新たなバイオマーカーの同定	大石 和佳	植田 慶子 Cullings HM (統計部) 林 奉権 (放射線生物学／分子疫学部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部) 高橋 郁乃 Cologne JB (統計部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部)	Berrington de Gonzalez A (米国国立がん研究所) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会) 田原 榮一 (広島がんセミナー)	2004
遺伝的要因は近距離被爆生存者の集団的偏りを来し得るか？ 同一の遺伝的要因が 40-50 年後の AHS 対象者で高炎症状態および心筋梗塞のリスク要因となった可能性を検証する	大石 和佳		藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会)	2005

平成 24 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線における研究者	放射線以外の研究者	開始年
臨床研究部 (広島) 原爆被爆者における緑内障調査	木内 良明 (広島大学)	中島 栄二 (統計部) 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部)	横山 知子 (広島大学) 上松 聖典 (長崎大学) 築城 英子 (長崎大学) 北岡 隆 (長崎大学) 鎌石 和男 (八千代病院) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会)	2005
原爆被爆者における炎症とがん発生率	立川 佳美	Hsu WL (統計部) 中島 栄二 (統計部) 小笹 晃太郎 (疫学部) 早田 みどり (長崎疫学部) 山田 美智子 Cologne JB (統計部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部)	鎌石 和男 (八千代病院) Little MP (米国立衛生研究所) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会)	2005
非がん死亡における中間危険因子	William L (米国ワシントン大学)	Hsu WL (統計部) 高橋 郁乃 Cologne JB (統計部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部) 見玉 和紀 (主席研究員)	藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会) Kopecky KJ (米国ワシントン大学、フレッド ハッチソンソンがん研究センター) Davis S (米国ワシントン大学、フレッドハッ チソンソンがん研究センター)	2006
肥満度指数 (BMI) と死亡率	Thun M (米国がん協会)	大石 和佳 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) Shore RE (副理事長)		2008
原爆被爆者の白内障水晶体標本の保存状況の検 討およびその収集と保存	飛田 あゆみ (長崎臨床研究部)	立川 佳美 中島 栄二 (統計部) 大石 和佳 赤星 正純 (長崎臨床研究部) 林 奉権 (放射線生物学/分子 疫学部) 伊藤 玲子 (放射線生物学/分 子疫学部) 中地 敬 (放射線顧問およびブ ロジェクト代表研究者)	鎌石 和男 (八千代病院) Blakely EA (米国立バークレイ研究所) Chang P (米国 SRI インターナショナル) 皆本 敦 (みなもと眼科クリニック) 横山 知子 (広島大学) 戸田 慎三郎 (戸田眼科) 上松 聖典 (長崎大学) 築城 英子 (長崎大学) 木内 良明 (広島大学) 北岡 隆 (長崎大学) 白井 彰 (白井眼科) Cucinotta FA (米国 NASA ジョンソン宇宙セ ンター) Chylack LT (米国ハーバード大学)	2008

平成 24 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線における研究者	放射線以外の研究者	開始年
臨床研究部 (広島) 被爆者の緑内障発症および大動脈動脈硬化に関連する網膜保存画像を用いた標準化測定による網膜細動脈硬化および加齢性黄斑変性の評価	高橋 郁乃	三角 宗近 (統計部) 中島 栄二 (統計部) Hsu WL (統計部) 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部)	柳 昌秀 (広島大学) 板倉 勝昌 (広島大学) 川崎 良 (オーストラリア、メルボルン大学) 横山 知子 (広島大学) 高松 倫也 (広島大学) 木下 博文 (長崎大学) 築城 英子 (長崎大学) 上松 聖典 (長崎大学) 隈上 武志 (長崎大学) 木内 良明 (広島大学) 北岡 隆 (長崎大学) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会) 鎌石 和男 (八千代病院)	2010
広島成人健康調査対象集団における体組成に関する調査	立川 佳美	三角 宗近 (統計部) 大石 和佳 山田 美智子	藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会) Harris TB (米国加齢研究所) 笠置 文善 (放射線影響協会)	2010
臨床研究部 (長崎) ブルガタ型心電図と前立腺がんとの関係	春田 大輔 (長崎大学)	赤星 正純 飛田 あゆみ 世羅 至子 今泉 美彩 中島 栄二 (統計部)	瀬戸 信二 (長崎大学)	2007
心血管疾患と原爆放射線—危険因子集簇の観点から	世羅 至子	赤星 正純 飛田 あゆみ 今泉 美彩 中島 栄二 (統計部)	瀬戸 信二 (長崎大学)	2007
脂肪肝の発生頻度と危険因子	恒任 章 (長崎大学)	中島 栄二 (統計部) 赤星 正純		2008
潜在性甲状腺機能異常と心血管疾患および死亡率の関係：大規模な国際的コホート調査の個人対象者総合解析	Rodondi N (スイス、ローザンヌ大学)	今泉 美彩	Gusseklou J (オランダ、ライデン大学医学センター)	2008

平成 24 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
臨床研究部 (長崎) 心室性期外収縮の発生部位の違いにおける予後の検討	春田 大輔 (長崎大学)	中島 栄二 (統計部) 赤星 正純	藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会)	2008
早期再分極異常の発生率および予後評価の検討	春田 大輔 (長崎大学)	中島 栄二 (統計部) 赤星 正純	恒任 章 (長崎大学)	2008
被爆者における慢性腎疾患と心血管疾患との関連	恒任 章 (長崎大学)	高橋 郁乃 (広島臨床研究部) 飛田 あゆみ 世羅 至子 今泉 美彩 山田 美智子 (広島臨床研究部) 大石 和佳 (広島臨床研究部) 立川 佳美 (広島臨床研究部) 中島 栄二 (統計部) Hsu WL (統計部) 三角 宗近 (統計部) 赤星 正純	鎌石 和男 (八千代病院) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会)	2009
QT 短縮の遺伝子基盤に関する研究	蒔田 直昌 (長崎大学)	赤星 正純	春田 大輔 (長崎大学) 前村 浩二 (長崎大学) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会)	2011
進行性心臓伝導障害の疫学と遺伝子異常に関する研究	蒔田 直昌 (長崎大学)	赤星 正純 中島 栄二 (統計部)	春田 大輔 (長崎大学) 前村 浩二 (長崎大学) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会)	2012
日本人における体重変動とがん、循環器疾患の罹患および死亡との関連	南里 明子 (国立国際医療研究センター)	世羅 至子 (広島臨床研究部) 高橋 郁乃 (長崎疫学部) 早田 みどり (疫学部) 小笹 晃太郎 (疫学部) Cologne JB (統計部) Hsu WL (統計部) Cullings HM (統計部) 赤星 正純	溝上 哲也 (国立国際医療研究センター) 陶山 昭彦 (大阪府済生会泉尾病院) 荒木 由布子 (久留米大学) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会)	2012
MRI による口腔乾燥症患者唾液腺における脂肪浸潤診断の重要性に関する検討	高木 幸則 (長崎大学)	飛田 あゆみ 赤星 正純	中村 英樹 (長崎大学) 角 美佐 (長崎大学) 中村 卓 (長崎大学)	2012

平成 24 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
遺伝学部 原爆被爆者における早発性の乳がんおよび卵巣がんにおける分子学的変化	馬淵 清彦 (米国立がん研究所) Land CE (米国立がん研究所)	平井 裕子		2001
ラット卵母細胞における突然変異の検出	上口 勇次郎 (旭川医科大学)	浅川 順一		2003
長崎の原爆被爆者から得られた菌試料の ESR 測定	三根 真理子 (長崎大学)	平井 裕子 中村 典 (同部顧問)		2005
ES 細胞のターゲットティング	末盛 博文 (京都大学)	野田 朝男		2007
胎仔照射したラット乳腺上皮細胞における染色体調査	鳥田 義也 (放射線医学総合研究所)	見玉 喜明		2008
放射線の遺伝影響測定モデル動物の作成	三谷 啓志 (東京大学大学院)	野田 朝男		2009
放射線のマウスオスオス生殖細胞に及ぼす遺伝的影響評価：高密度マイクロアレイ CGH 法を用いた調査	鳥田 義也 (放射線医学総合研究所)	浅川 順一		2009
日本人に特有な XPA 遺伝子創始者変異ヘテロ保有者における非黒色腫皮膚がんリスクの評価	馬淵 清彦 (米国立がん研究所) Kraemer KH (米国立がん研究所)	平井 裕子 中村 典 (同部顧問)		2009
放射線生物学／分子疫学部 散発性肺癌がんにおける遺伝子変異と遺伝的感受性の研究 (SNP)	清水 憲二 (岡山大学)	中地 敬 (放影研顧問およびプロジェクト代表研究者) 林 奉権 吉田 健吾 今井 一枝		2002
散発性肺癌がんにおける遺伝子変異と発現の研究	末岡 榮三朗 (佐賀大学) 荒金 尚子 (佐賀大学)	中地 敬 (放影研顧問およびプロジェクト代表研究者) 林 奉権 吉田 健吾 今井 一枝		2002

平成 24 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線研究における研究者	放射線以外の研究者	開始年
放射線生物学/分子疫学部 日本人集団における様々な遺伝子多型の頻度調査	吉田 輝彦 (国立がんセンター)	中地 敬 (放射線顧問およびプロジェクト代表研究者) 楠 洋一郎 林 奉権 吉田 健吾 今井 一枝		2002
胃がんの遺伝的感受性の研究	安井 弥 (広島大学)	林 奉権 中地 敬 (放射線顧問およびプロジェクト代表研究者) 伊藤 玲子 今井 一枝		2002
細胞への放射線影響における低酸素応答遺伝子 <i>HIF1α</i> の役割に関する研究	谷本 圭司 (広島大学)	中地 敬 (放射線顧問およびプロジェクト代表研究者) 今井 一枝	末岡 榮三朗 (佐賀大学) 荒金 尚子 (佐賀大学) 江口 英孝 (埼玉医科大学)	2002
原爆被爆者における甲状腺がんの研究 (広島)	濱谷 清裕	多賀 正尊 伊藤 玲子	有廣 光司 (広島大学) 林 雄三 (広島市立安佐市民病院)	2002
細胞膨化致死毒素による末梢リンパ球アポトーシス誘導の研究	管井 基行 (広島大学) 小原 勝 (広島大学)	楠 洋一郎 林 奉権 中地 敬 (放射線顧問およびプロジェクト代表研究者)		2001
放射線と抗がん剤の組み合わせによるアポトーシス誘導におけるギヤップ結合の役割に関する研究	小川 貴彦 (県立広島病院) 林 奉権	中地 敬 (放射線顧問およびプロジェクト代表研究者)	Trosko JE (米国ミシガン州立大学)	1998
遺伝子改変マウスの <i>TCR</i> 遺伝子および <i>HPRT</i> 遺伝子変異の解析	笹谷 めぐみ (広島大学原爆放射線医学研究所)	楠 洋一郎 中地 敬 (放射線顧問およびプロジェクト代表研究者)	神谷 研二 (広島大学原爆放射線医学研究所)	2004
散発性胃癌がんにおける遺伝子メチル化の役割の研究	湯浅 保仁 (東京医科歯科大学)	今井 一枝 中地 敬 (放射線顧問およびプロジェクト代表研究者)		2003

平成 24 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線における研究者	放射線以外の研究者	開始年
放射線生物学／分子疫学部 散発性乳がんの発生・進展の分子生物学的研究	林 慎一 (東北大学)	中地 敬 (放射線顧問およびプロジェクト代表研究者) 今井 一枚 林 奉権	江口 英孝 (埼玉医科大学)	2002
がん細胞のアポトーシスにおける細胞間コミュニケーションの研究	林 奉権		小川 貴彦 (県立広島病院)	2005
原爆被爆者に発生したがんの組織試料収集	中地 敬 (放射線顧問およびプロジェクト代表研究者)	濱谷 清裕 多賀 正尊 伊藤 玲子	安井 弥 (広島大学)	2004
免疫学的加齢と細胞内活性酸素産生への放射線影響の研究	林 奉権		林 幾江 (広島大学)	2006
原爆被爆者における肺および大腸がんの研究	濱谷 清裕	多賀 正尊 伊藤 玲子 中地 敬 (放射線顧問およびプロジェクト代表研究者)	安井 弥 (広島大学) 江口 英孝 (埼玉医科大学)	2004
原爆被爆者における胃がんの研究	安井 弥 (広島大学)	濱谷 清裕 多賀 正尊 伊藤 玲子 中地 敬 (放射線顧問およびプロジェクト代表研究者)		2006
末梢リンパ球を用いた放射線誘発遺伝的不安定性の機序に関する研究	本間 正充 (国立医薬品食品衛生研究所)	楠 洋一郎 濱崎 幹也 (遺伝学部)		2008
散発性胃がんの臨床および分子病理学的解析	安井 弥 (広島大学)	伊藤 玲子 中地 敬 (放射線顧問およびプロジェクト代表研究者)		2004
放射線症例研究のための新規統計モデルの開発	和泉 志津恵 (大分大学)	中地 敬 (放射線顧問およびプロジェクト代表研究者) 古川 恭治 (統計部)		2006

平成 24 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射研における研究者	放射研以外の研究者	開始年
放射線生物学／分子疫学部 原爆被爆者における甲状腺がんの研究 (長崎)	濱谷 清裕	早田 みどり (長崎疫学部)	中島 正洋 (長崎大学) 関根 一郎 (長崎県赤十字血液センター) ほか	2005
散発性胃がんにおける炎症性サイトカインの役割	菅沼 雅美 (埼玉県立がんセンター)	今井 一枝 林 奉権 中地 敬 (放射研顧問およびプロジェクト代表研究者)	Harris CC (米国立がん研究所) 安井 弥 (広島大学) 田原 榮一 (広島がんセミナー)	2006
原爆被爆者の肺がんの分子疫学的特徴の研究	多賀 正尊	濱谷 清裕 伊藤 玲子		2004
アジア太平洋地域における心血管疾患の共同コホート研究	Asian Pacific Cohort Studies Collaboration (オーストラリア、ジョージ国際健康研究所)	中地 敬 (放射研顧問およびプロジェクト代表研究者) 今井 一枝		1996
ドイツ人および日本人に発生した乳がんの細胞遺伝学的・分子疫学的差異	Brandt B (ドイツ、ミュンスター大学)	中地 敬 (放射研顧問およびプロジェクト代表研究者) 今井 一枝		1998
幹細胞への放射線および薬物影響の生物学	林 奉権	中地 敬 (放射研顧問およびプロジェクト代表研究者)	Trosko JE (米国ミネソタ州立大学) 林 幾江 (広島大学)	2002
甲状腺腫瘍の分子解析	武市 宣雄 (武市クリニック)	濱谷 清裕 中地 敬 (放射研顧問およびプロジェクト代表研究者) 楠 洋一郎		2008
低線量放射線により循環器疾患が誘発されるかを動物モデルを使い検討する	稲葉 俊哉 (広島大学)	丹羽 保晴 高橋 規郎 (副理事長室付顧問) 楠 洋一郎		2012
動物モデルを使った放射線により誘発される循環器疾患の研究	稲葉 俊哉 (広島大学)	丹羽 保晴 高橋 規郎 (副理事長室付顧問) 楠 洋一郎		2011
動物モデルを使った放射線により誘発される循環器疾患の研究	田中 公夫 (環境科学技術研究所)	高橋 規郎 (副理事長室付顧問) 村上 秀子 丹羽 保晴 楠 洋一郎	小木曾 洋一 (環境科学技術研究所) 田中 聡 (環境科学技術研究所)	2011

平成 24 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線における研究者	放射線以外の研究者	開始年
疫学部 (広島) 放射線防護基準に関する疫学研究のタスクグループ	笠置 文善 (放射線影響協会)	坂田 律	秋葉 澄伯 (鹿児島大学) 信治 信治 (放射線医学総合研究所) 吉永 文善 (放射線医学総合研究所) 土居 主尚 (放射線医学総合研究所) 水野 正一 (国立健康・栄養研究所) 笹川 澄子 (環境科学技術研究所) 岩崎 利泰 (電力中央研究所) 岩崎 尚樹 (国立保健医療科学院) 櫻田 恵子 (放射線影響協会)	2005
原爆被爆者における放射線治療と第二原発がんリスクの関連	吉永 信治 (放射線医学総合研究所)	早田 みどり (長崎疫学部) 森脇 宏子 Hsu WL (統計部) 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 山田 美智子 (臨床研究部) 片山 博昭 (情報技術部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部)	笠置 文善 (放射線影響協会) 西 信雄 (国立健康・栄養研究所) 赤羽 恵一 (放射線医学総合研究所) 土居 主尚 (放射線医学総合研究所) 島田 義也 (放射線医学総合研究所) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会) 陶山 昭彦 (大阪府済生会泉尾病院)	2007
喫煙、禁煙の健康影響の研究	Darby S (英国オックスフォード大学)	坂田 律 Grant EJ 杉山 裕美 早田 みどり (長崎疫学部) 清水 由紀子 (非常勤研究員) 立川 佳美 (臨床研究部) 山田 美智子 (臨床研究部) 森脇 宏子 児玉 和紀 (主席研究員)	McGale P (英国オックスフォード大学) Boreham J (英国オックスフォード大学) Peto R (英国オックスフォード大学)	2007
寿命調査集団における結腸がん罹患率への放射線の影響に対する身体計測値の交絡あるいは交互作用	Semmens E (米国ワシントン大学)	Grant EJ 杉山 裕美 森脇 宏子 坂田 律 早田 みどり (長崎疫学部) 山田 美智子 (臨床研究部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部) 児玉 和紀 (主席研究員)	西 信雄 (国立健康・栄養研究所) Li CI (米国ワシントン大学) 笠置 文善 (放射線影響協会) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会) Davis S (米国ワシントン大学) Kopecky KJ (米国ワシントン大学) 馬淵 清彦 (米国国立がん研究所)	2008

平成 24 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
疫学部 (広島) 食道がんと胃がん：広島と長崎におけるリスクの傾向と予測因子	Kennedy BS (米国ジョージタウン大学)	Grant EJ 清水 由紀子 (非常勤研究員) 杉山 裕美 (長崎疫学部) 早田 みどり (長崎疫学部) 坂田 律 Cologne JB (統計部) Cullings HM (統計部) 山田 美智子 (臨床研究部)	馬淵 清彦 (米国立がん研究所) Chow WH (米国立がん研究所) 笠置 文善 (放射線影響協会) 陶山 昭彦 (大阪府済生会泉尾病院) 西 信雄 (国立健康・栄養研究所)	2008
原爆被爆者における放射線被曝と腎疾患との関連性	Adams MJ (米国ロチェスター大学)	Grant EJ 児玉 和紀 (主席研究員) 清水 由紀子 (非常勤研究員) 坂田 律 赤星 正純 (長崎臨床研究部)	笠置 文善 (放射線影響協会) 陶山 昭彦 (大阪府済生会泉尾病院) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会)	2008
放射線に関連した甲状腺がんの第2回共同解析	Veiga L (米国立がん研究所) Lubin J (米国立がん研究所)	坂田 律 Shore RE (副理事長)		2008
アジア人コホート研究コンソーシアムへの参画提案プロジェクト1：喫煙・飲酒・肥満度と稀ながんのリスク、プロジェクト2：BMIと全死亡率(第2段階)、プロジェクト3：アジア人コホートにおける肥満度(BMI)と中頻度および低頻度のがんのリスク、プロジェクト4：アジア人における食習慣と死亡率	Potter J (米国フレッドハッチソンがん研究センター) Kang D (韓国ソウル国立大学医学部)	Grant EJ 小笹 晃太郎 大石 和佳 (臨床研究部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部) Shore RE (副理事長)		2010
食事および膀胱がんの関係に関する統合プロジェクトへの参加提案	Zeegers M (オランダ、マーストリヒト大学)	Grant EJ 小笹 晃太郎 大石 和佳 (臨床研究部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部)		2012
LSS 集団における放射線のがん罹患リスク (幾つかの部位別がん研究を含む)	馬淵 清彦 (米国立がん研究所) 小笹 晃太郎	Cullings HM (統計部) 古川 恭治 (統計部) 三角 宗近 (統計部) 船本 幸代 (統計部) Grant EJ 杉山 裕美 坂田 律 定金 敦子	Brenner A (米国立がん研究所) Neta G (米国立がん研究所) Cahoon EK (米国立がん研究所) Berrington de Gonzalez A (米国立がん研究所) Preston DL (米国ヒロソフト・インターナショナル)	2012

平成 24 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線における研究者	放射線以外の研究者	開始年
疫学部 (長崎) 長崎原爆被爆者に発生した病理組織学的診断根拠のある多重がん症例の同定	中島 正洋 (長崎大学)	早田 みどり		2007
長崎県がん登録に基づく放射線治療環境と患者予後についての研究	大野 ゆう子 (大阪大学)	早田 みどり		2008
長崎県がん登録に基づく患者受療動態から見た医療圏の研究	大野 ゆう子 (大阪大学)	早田 みどり		2008
長崎県の小児がん患者における治療医療機関の集中化と生存率についての検討	大野 ゆう子 (大阪大学)	早田 みどり		2008
統計部 原爆被爆者における眼科調査 (AHS 白内障調査)	皆本 敦 (みなもと眼科クリニック)	飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 立川 佳美 (臨床研究部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部) 中島 栄二	横山 知子 (広島大学) 三嶋 弘 (広島鉄道病院) 北岡 隆 (長崎大学) 鎌石 和男 (八千代病院) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会)	2007
被爆二世における眼科調査	皆本 敦 (みなもと眼科クリニック)	飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 立川 佳美 (臨床研究部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部) 中島 栄二	横山 知子 (広島大学) 三嶋 弘 (広島鉄道病院) 北岡 隆 (長崎大学) 鎌石 和男 (八千代病院) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会)	2002
原爆被爆者のデータにおける染色体異常、放射線の初期影響および後影響に関する同時解析	Stram D (米国南カリフォルニア大学)	Cologne JB Cullings HM 古川 恭治 三角 宗近		2007
コホート内疫学研究の抽出についてのデザインおよび検出力	Cologne JB	Cullings HM	和泉 志津恵 (大分大学) 藤井 良宣 (宮崎大学) Langholz B (米国南カリフォルニア大学)	2002
がんリスクの機序モデル	Dekkers F (オランダ国立公衆衛生環境研究所) Bijwaard H (オランダ国立公衆衛生環境研究所)	Hsu WL		2007

平成 24 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
統計部 がんリスクの機序モデル	Kaiser JC (ドイツ国立環境保健研究所)	Cullings HM		2008
消化管がんに関する分子学的研究 (DNA メチル化など)	松原 長秀 (岡山大学)	Cullings HM		2004
日本におけるトコロスト投与患者と原爆被爆者の肝がんリスクの比較	森 武三郎 (放射線医学総合研究所)	Cullings HM Cologne JB 清水 由紀子 (疫学部非常勤研究員) 徳岡 昭治 (放影研顧問)		2005
原爆被爆者線量推定値における不確実性を評価しそれに対処するための操作変数としての生物学的線量推定値: AHS の部分集団における予備評価	Carter R (米国ニューヨーク州立大学バッファロー校)	Cullings HM 見玉 和紀 (主席研究員) 楠 洋一郎 (放射線生物学/分子疫学部) 中村 典 (遺伝学部顧問) 小笹 晃太郎 (疫学部) 今泉 美彩 (長崎臨床研究部) Cologne JB 中島 栄二 三角 宗近 船本 幸代 Douple EB (主席研究員)	Miller A (米国ニューヨーク州立大学バッファロー校) Tekwe C (米国ニューヨーク州立大学バッファロー校) 錬石 和男 (八千代病院) Stram D (米国南カリフォルニア大学)	2007
胎内被爆者または若年被爆者におけるがん罹患率のリスク評価	Preston DL (米国ヒロソフ・インターナショナル)	Cullings HM 見玉 和紀 (主席研究員) 早田 みどり (長崎疫学部) Shore RE (副理事長)	陶山 昭彦 (大阪府済世会泉尾病院)	2007
歯エナメル質 ESR 測定値の遮蔽カーマと臓器線量への換算のための特殊モンテカルロ計算法	中村 典 (遺伝学部顧問) Egbert S (米国サイエンス・アプリケーションズ・インターナショナル)	Cullings HM	Wieser A (ドイツ国立環境衛生研究センター)	2007
スペクトルデコンボリューション、新手法および新情報を用いた、放影研の歯の ESR 測定データの更新	中村 典 (遺伝学部顧問) Egbert S (米国サイエンス・アプリケーションズ・インターナショナル)	Cullings HM	Wieser A (ドイツ国立環境衛生研究センター)	2007

平成 24 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線における研究者	放射線以外の研究者	開始年
統計部 個々のデータを用いたリスク評価のベイジック的アプローチ	Little MP (米国立衛生研究所)	Cullings HM 古川 恭治 早田 みどり (長崎疫学部) 坂田 律 (疫学部)	西 信雄 (国立健康・栄養研究所) 陶山 昭彦 (大阪府済世会泉尾病院) 笠置 文善 (放射線影響協会) Molitor J (米国南カリフォルニア大学)	2007
放射線被曝およびバイオマーカーのための関数法	Wang CY (米国フレッドハッチンソンがん研究センター)	Cullings HM		2007
LSS コホートにおける白血病、リンパ腫と多発性骨髄腫の罹患率：1950-2001 年	Preston DL (米国ヒロソフト・インターナショナル)	Hsu WL 早田 みどり (長崎疫学部) 船本 幸代	陶山 昭彦 (大阪府済世会泉尾病院) 笠置 文善 (放射線影響協会)	2004
放射線、炎症および特定の放射線・炎症誘発健康影響に対する因果モデルの適用	Cologne JB	中島 栄二 坂田 律 (疫学部) 高橋 郁乃 (臨床研究部) 山田 美智子 (臨床研究部)	鎌石 和男 (八千代病院) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会) 角間 辰之 (久留米大学) 荒木 由布子 (久留米大学)	2007
チェルノブイリ事故後の甲状腺がんと甲状腺疾患のためのコホートにおける甲状腺機能亢進症の有病率	Hatch M (米国立がん研究所)	古川 恭治		2009
米国における成人甲状腺機能亢進症のための放射線ヨウ素治療のがん死亡率への関連	馬淵 清彦 (米国立がん研究所)	古川 恭治		2009
原爆被曝者における放射線被曝と喫煙の肺がんリスクへの相互効果	Preston DL (米国ヒロソフト・インターナショナル)	古川 恭治 船本 幸代 徳岡 昭治 (放射線顧問)	馬淵 清彦 (米国立がん研究所) 江川 博彌 (広島市立安佐市民病院) 米原 修治 (JA 広島厚生連尾道総合病院) 松尾 武 (長崎県健康事業団)	2006
LSS 集団における甲状腺腫瘍発生率の調査	馬淵 清彦 (米国立がん研究所)	徳岡 昭治 (放射線顧問) 坂田 律 (疫学部) 古川 恭治 船本 幸代	Preston DL (米国ヒロソフト・インターナショナル) 林 雄三 (広島市立安佐市民病院) 津田 暢夫 (長崎県健康事業団)	2009
AHS 集団における動脈硬化の研究 (第 1 部：動脈硬化性指標を用いた検討)	藤原佐枝子 (広島原爆障害対策協議会)	高橋 郁乃 (臨床研究部) 山田 美智子 (臨床研究部) 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部) Hsu WL 三角 宗近	高橋 哲也 (広島大学病院) 木原 泰樹 (広島大学病院) 松本 正泰 (広島大学病院)	2009

平成 24 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
統計部 セミパラメトリック生存外挿法：放影研のコホートを用いたモデルの検証	方 啓泰 (台湾大学疫学研究所)	Hsu WL 古川 恭治 Cullings HM 早田 みどり (長崎疫学部) 小笹 晃太郎 (疫学部)	王 榮徳 (台湾大学公衆衛生学院) 黄 景祥 (台湾中央研究院) 笠置 文善 (放射線影響協会) 陶山 昭彦 (大阪府済世会泉尾病院)	2009
成人健康調査集団における放射線、炎症、白内障手術への因果モデルの応用	角間 辰之 (久留米大学) Hsu WL	中島 栄二	荒木 由布子 (久留米大学) 鎌石 和男 (八千代病院)	2009
長期待重変動とがんおよび心血管疾患罹患および死亡に関するコホート研究	南里 明子 (国立国際医療センター 研究所) 溝上 哲也 (国立国際医療センター 研究所)	赤星 正純 (長崎臨床研究部) 早田 みどり (長崎疫学部) Cologne JB	荒木 由布子 (久留米大学)	2009
コホート内症例対照調査における放射線と中間リスク因子の同時効果に関する評価方法	Cologne JB	古川 恭治 Hsu WL Grant EJ (疫学部) 大石 和佳 (臨床研究部) 中地 敬 (放影研顧問およびプロジェクト代表研究者) Cullings HM	Langholz B (米国南カリフォルニア大学) 藤井 良宜 (宮崎大学) 和泉 志津恵 (大分大学) Kopecky KJ (米国ワシントン大学) 鎌石 和男 (八千代病院) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会)	2008
腹囲の推定可能性とメタボリック症候群のリスク解析への応用	中村 剛 (長崎大学)	早田 みどり (長崎疫学部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部) Cullings HM 中島 栄二 三角 宗近	市丸 晋一郎 (長崎大学) 石田 紀子 (株式会社ピーシーエル)	2008
急性放射線被曝後のがんリスク推定：中性子線量の影響とリスク係数のノンパラメトリック解析	Cullings HM		Kaiser JC (ドイツ国立環境保健研究所) Jacob P (ドイツ国立環境保健研究所) Rühm W (ドイツ、ミュンヘン大学/国立環境保健研究所) Walsh L (ドイツ放射線防護連邦局)	2008
急性放射線被曝後のがんリスク推定：リスク推定値への放射線生物学的効果の影響	Cullings HM		Kaiser JC (ドイツ国立環境保健研究所) Eidemüller M (ドイツ国立環境保健研究所) Jacob P (ドイツ国立環境保健研究所)	2008

平成 24 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線における研究者	放射線以外の研究者	開始年
統計部 放射線と心血管疾患の関連における内臓脂肪の役割と効果	世羅 至子 (長崎臨床研究部)	飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 今泉 美彩 (長崎臨床研究部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部) Hsu WL 中島 栄二 Cullings HM	Carter R (米国ニューヨーク州立大学バッファロー校)	2011
情報技術部 ヒト遺伝子解析用データベースの構築とユークザー・インターフェースの開発、およびディクショナリーシステムの構築に関する共同研究	Slezak T (米国ローレンス・リバモア国立研究所)	片山 博昭		1996
大阪府のがん対策事業に対する包括的がん登録システム構築に関する技術協力	津熊 秀明 (大阪府立成人病センター)	片山 博昭		2005
セミパラチンスクス実験場における健康影響調査および線量測定	星 正治 (広島大学原爆放射線医科学研究所)	片山 博昭		2005

国際協力活動

放影研役職員の国際協力関係活動への参加

1. 世界保健機関（WHO）関連協力

放影研は、1979年に放射線の人体影響に関するWHO研究協力センターに指定され、1988年からはWHO放射線緊急事故医学的対応・救援ネットワーク（REMPAN）のメンバーに指定されている。今年度はRoy E. Shore 副理事長兼業務執行理事（研究担当）が、福島第一原子力発電所事故における健康リスクに関するWHOの報告書の作成・編集作業に協力した（2012年4月～2013年2月）。

2. 国際連合原子放射線影響科学委員会（UNSCEAR）関連

Shore 副理事長が、小児放射線被曝に関する報告書を作成・編集するため設置されたUNSCEAR小委員会の委員を務めた（2012年4月～2013年3月）。

また、Shore 副理事長は、2012年5月21～24日にオーストリアのウィーンで開催されたUNSCEARの会議に出席し発表を行った。

3. 国際放射線防護学会（IRPA）関連

IRPAの主たる目的は放射線防護活動に従事する世界中の研究者のコミュニケーションを図ることである。2012年5月15日にスコットランドのグラスゴーで開催されたIRPAの会議において、Shore 副理事長が多くの国からの参加者に対し放影研の研究に関して招待講演を行い、放射線研究におけるニーズに関するパネル・ディスカッションに参加した。

4. 米国放射線防護・測定審議会（NCRP）関連

Shore 副理事長が、2013年3月10～12日に米国ワシントンで開催されたNCRPの年次総会に出席し、招待講演を行った。また、放射線と生物学的／健康アウトカムに関する研究上のニーズの特定と報告書作成の計画を目的としたNCRP委員会に出席した。

また、Shore 副理事長は、放射線リスク推定における不確実性に関するNCRPの報告書を審査し、編集した（2012年4月～6月）。

5. 米国国立がん研究所（NCI）関連

Shore 副理事長が、2012年11月9日および2013年3月13日に米国ワシントンのNCIで開かれた放射線、遺伝学および甲状腺がんに関する共同研究を計画するための会議

に出席した。

6. 核戦争防止国際医師会議（IPPNW）関連

Shore 副理事長が2012年8月24日、広島で開催された第20回IPPNW世界大会において、諸外国からの出席者に対し放影研の放射線研究の結果について講演した。

7. 在韓被爆者健康相談事業への協力

この事業は長崎県と長崎市が国の在外被爆者支援事業の一環として、在韓被爆者の健康相談と指導を行うため2004年度から始めたものである。2012年度は、放影研から赤星正純長崎臨床研究部長が第17回在韓被爆者健康相談（2012年5月20～25日、韓国、陝川）、および第18回在韓被爆者健康相談（2012年11月11～16日、韓国、釜山）に参加した。

8. その他

Shore 副理事長が、2012年11月29～30日に米国ニューヨークで開催された、乳がんおよび心疾患に関連した放射線と遺伝学についての米国およびヨーロッパの研究者との共同研究に関する会議に出席し、招待講演を行った。

海外からの視察・研修などの受け入れ

2012年度総計99人（一般見学者は除く）

【広島87人】

放射線被曝者医療国際協力推進協議会（HICARE）関係受け入れ（34人）

1) 国際原子力機関（IAEA）関連（2人）

2012年5月23日、IAEA原子力科学応用局ヒューマンヘルス部のRethy Chhem 部長およびSoveacha Ros 教育研修コンサルタントが広島研究所を視察した。

2) 韓国関係（19人）

2012年7月23日 韓国からの研修生3人。2012年9月25日 在韓国被爆者医療短期研修団10人。2012年11月27日 韓国放射線被曝者医療従事者短期研修団6人。

3) その他（13人）

2012年7月23日 米国からの研修生2人。2012年8月22日 ブラジルからの研修生1人。2013年1月21日 スリランカ、フィンランド、米国、ブラジルからの研修生4人。2013年2月21日 米国、ブラジル、ベラルーシからの研修生6人。

国際協力機構（JICA）関係受け入れ（28人）

1) 結核予防会結核研究所

2012年11月13日平成24年度「STOP TB HIV・耐性結核対策菌検査コース」研修生7人（アフガニスタン、カンボジア、ケニア、ミャンマー、フィリピン、ザンビア、中国）

2) 北九州国際技術協力協会

2012年10月24日「平成24年度勤労者のための産業保健と予防医療コース」研修生8人（コソボ、マレーシア、モルディブ、フィリピン、南アフリカ共和国、ベトナム）

3) 国立循環器病センター

2012年10月5日「平成24年度集団循環器病対策コース」研修生5人（アルバニア、アルゼンチン、ホンジュラス、タイ）

4) 国立がんセンター

2012年11月12日「最新のがんの診断と治療」研修生8人（アルメニア、コスタリカ、マケドニア、ナイジェリア、セルビア、スリランカ、ウルグアイ）

放影研独自プログラムによる受け入れ（1人）

2013年1月6日～2月23日

Seung Hyun Hong 韓国国立がんセンターがんゲノミクス部門研究員

放射線生物学／分子疫学部免疫学研究室において、免疫機能に対する放射線被曝の影響に関する実験、HLA（ヒト白血球抗原）遺伝子型決定などについて研修、また遺伝学部細胞遺伝学研究室において蛍光 *in situ* ハイブリダイゼーション（FISH）法などについて研修。

文部科学省関係受け入れ（12人）

2012年11月19日「2011-2012年度ヤング・リーダーズ・プログラム」名古屋大学大学院医学系研究科医療行政学研修コース研修生12人（アフガニスタン、キルギス、モンゴル、タイ、ラオス、ミャンマー、カンボジア、カザフスタン、ウズベキスタン、バングラディッシュ、ルーマニア）

その他（12人）

2012年8月23日第20回IPPNW世界大会参加者ら6人が放影研広島研究所を訪問。2012年9月7日広島県医師会を通じ、Susan Reynolds 米国ロサンゼルス医師会常任理事ほか1人が広島研究所を視察。2012年11月26日日本新聞協会を通じ、「欧州記者フェローシップ計画」による研修生4人（チェコ、デンマーク、ルーマニア、英国）が

広島研究所を訪問。

【長崎12人】

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会（NASHIM）関係受け入れ（12人）

2012年7月24日2012年度NASHIM夏期研修生6人（ロシア、ウクライナ、ベラルーシ、カザフスタン）。2012年9月12日被曝医療研修医師団3人（韓国）。2013年2月21日被曝医療研修医師団3人（韓国、ブラジル）。

放影研と海外研究者・研究機関との共同事業

1. 米国 NCI との共同研究

- 1) 米国ヒロソフト・インターナショナル・コーポレーションの Dale Preston 主席研究員が、「原爆被曝者における白血病および部位別がん（悪性リンパ腫、固形がん罹患など）」の共同研究のため、2012年4月5-24日および10月28日-11月17日に来所。
- 2) 米国 NCI 放射線疫学部門の馬淵清彦副部長および Alina V. Brenner 研究員が、NCIの研究補助金による部位別がん研究などの共同研究のため、2012年4月16-20日に来所。また、Brenner 研究員は4月16日に「NCIにおけるチェルノブイリ後の甲状腺がんの分子遺伝学研究」というテーマで放影研研究員に対し講演を行った。
- 3) 古川恭治統計部副主任研究員が、2012年6月13-24日に米国メリーランド州ロックビルのNCIにて「チェルノブイリ事故後の甲状腺疾患のコホート研究」に関する共同研究を実施。
- 4) 小笹晃太郎疫学部長が、2012年6月14-15日、NCIにて寿命調査におけるがん罹患研究に関する共同研究を実施。
- 5) 坂田 律広島疫学部副主任研究員が、2012年10月5-14日、NCIにて「部位別がん研究（悪性リンパ腫）」に関する共同研究を実施。また良性婦人科疾患への放射線治療後のがん死亡率に関する共同論文を発表した（Sakata R, Kleinerman RA, Mabuchi K, Stovall M, Smith SA, Weathers R, Wactawski-Wende J, Cookfair DL, Boice JD Jr, Inskip PD. Cancer mortality following radiotherapy for benign gynecologic disorders. *Radiat Res* 2012; 178(3):266-79）。
- 6) Wan-Ling Hsu 統計部副主任研究員が、米国ヒロソフト・インターナショナル・コーポレーションの Preston 主席研究員や米国 NCI 放射線疫学部門の馬淵副部長らと共同で論文を発表（Hsu WL, Preston DL, Soda M, Sugiyama

H, Funamoto S, Kodama K, Kimura A, Kamada N, Dohy H, Tomonaga M, Iwanaga M, Miyazaki Y, Cullings HM, Suyama A, Ozasa K, Shore RE, Mabuchi K. The incidence of leukemia, lymphoma and multiple myeloma among atomic bomb survivors: 1950–2001. *Radiat Res* 2013; 179(3):361–82)。

7)坂田副主任研究員が、2013年3月21–22日にNCIで行われた「脳・中枢神経腫瘍についての共同研究会議」に出席。

2. 米国国立アレルギー感染症研究所 (NIAID) 研究助成による共同研究

1)統計部の古川副主任研究員と三角宗近研究員が、オハイオ州立大学 (米国オハイオ州コロンバス) の Susan Geyer 博士と半期報告書のための中間解析を行った。

2)放影研研究員 8人が2012年7月28–31日に東京で開催された NIAID プロジェクトのプログラム検討会に出席した。11の機関から合計 28人の共同研究者が今年で3回目となる年次プログラム検討会に参加し、将来計画について討議を行った。

3)NIAIDの共同研究者が2012年7月31日に二つのワークショップを東京で開催し、NIAID プロジェクトに関連した胸腺研究およびワクチン接種に関する研究の将来計画に焦点を当てた議論をした。

4)放射線生物学／分子疫学部の梶村順子研究員が、2012年10月14–21日に米国デューク大学の Gregory Sempowski 博士の研究室を訪問し、NIAID プロジェクトに関連した免疫学的測定方法について詳細に論議した。また、放影研の試料の使用と状況の検討、ならびにデューク大学の研究者およびオハイオ州立大学の Geyer 博士 (NIAID プロジェクトの主任統計学者) と協議を行った。

5)2013年1月以降、Geyer 博士、放影研の2人の統計部研究員および NIAID プロジェクトに関与してきた放影研研究員との間で統計学解析およびデータ転送について話し合うために電話会議を行った。

6)以下の論文が出版された (Wang C, Nakamura S, Oshima M, Mochizuki-Kashio M, Nakajima-Takagi Y, Osawa M, Kusunoki Y, Kyoizumi S, Imai K, Nakachi K, Iwama A. Compromised hematopoiesis and increased DNA damage following non-lethal ionizing radiation of a human hematopoietic system reconstituted in immunodeficient mice. *Int J Radiat Biol* 2013; 89(2):132–7)。

3. 統計解析国際共同研究への参加

1)米国オレゴン保健科学大学の研究者1人が、「線量反応解析における線量誤差の影響を修正する際の課題」について統計部と共同研究を実施するため、2012年10月25日–11月18日に来所。

2)米国南カリフォルニア大学の研究者1人が、将来の共同プロジェクトについて討議のため、2012年9月2–9日に来所。

3)Harry M. Cullings 統計部長が、フレッドハッチンソンがん研究センター (米国ワシントン州シアトル) の研究者と共同で、生物学的線量推定法の結果を用いて放影研の研究における線量推定の不確実性を評価するセミパラメトリック法に関する論文を作成した。

4. 放影研・ワシントン大学パートナーシップ

Eric J. Grant 広島疫学部副部長が、米国ワシントン大学疫学部大学院生に研究の指導を行い、身長・体重などの人類学的因子が放射線の結腸がんリスクに与える影響に関する論文が発表された (Semmens EO, Kopecky KJ, Grant EJ, Mabuchi K, Mathes RW, Nishi N, Sugiyama H, Moriwaki H, Sakata R, Soda M, Kasagi F, Yamada M, Fujiwara S, Akahoshi M, Davis S, Kodama K, Li CI. Relationship between anthropometric factors, radiation exposure, and colon cancer incidence in the Life Span Study cohort of atomic bomb survivors. *Cancer Causes Control* 2013; 24(1):27–37)。

5. アジアコホートコンソーシアム (ACC) への参画

Grant 広島疫学部副部長が、2012年10月19–20日に台湾の台北で開催された「2012年秋季ACC会議」に出席した。また、Grant 副部長は、コンソーシアムの事務局であるフレッドハッチンソンがん研究センターと定期的に電話会議で討議を行った。下記の論文が、2012年10月30日に *European Journal of Cancer Prevention* オンライン版に掲載された (Lin Y, Fu R, Grant EJ, Chen Y, Eun Lee J, Gupta PC, Ramadas K, Inoue M, Tsugane S, Gao YT, Tamakoshi A, Shu XO, Ozasa K, Tsuji I, Kakizaki M, Tanaka H, Chen CJ, Yoo KY, Ahn YO, Ahsan H, Pednekar MS, Sauvaget C, Sasazuki S, Yang G, Xiang YB, Ohishi W, Watanabe T, Nishino Y, Matsuo K, You SL, Park SK, Kim DH, Parvez F, Rolland B, McLerran D, Sinha R, Boffetta P, Zheng W, Thornquist M, Feng Z, Kang D, Potter JD. Association of body mass index and risk of death from pancreas cancer in Asians: findings from the Asia Cohort Consortium)

6. オックスフォード大学との共同研究

- 1) Grant 広島疫学部副部長が 2012 年 6 月 27-29 日、英国オックスフォード大学において乳がんおよび前立腺がんに関する会議に参加（招待）した。
- 2) 小笹疫学部長、坂田広島疫学部副主任研究員が 2012 年 10 月 29-31 日にオックスフォード大学で開催された Richard Doll 博士生誕 100 周年記念会議に出席した。
- 3) 小笹部長、坂田副主任研究員、Grant 副部長が、日本人における喫煙による肺がんリスクの関連、特に出生コホート効果に関するオックスフォード大学 Sarah Darby 教授との共同研究において論文を発表した (Sakata R, McGale P, Grant EJ, Ozasa K, Peto R, Darby SC. Impact of smoking on overall mortality and life expectancy in Japanese smokers: A prospective cohort study. *BMJ* 2012; 345:e7093)。

7. マーストリヒト大学との共同研究

Grant 広島疫学部副部長が、マーストリヒト大学（オランダ）の Maurice Zeegers 客員教授（以前はバーミンガム大学）によって行われている統合解析に、放影研の膀胱がん罹患および食事に関するデータを用いて参加するため、研究計画書を提出した。論文は 2013 年に発表予定。

8. ロチェスター大学との共同研究

以前放影研に Beebe フェローとして来所し、現在は米国ロチェスター大学医療センター公衆衛生学講座に在籍の研究者と共同で、放射線量と腎不全死亡率の関連性に関する論文が発表された (Adams MJ, Grant EJ, Kodama K, Shimizu Y, Kasagi F, Suyama A, Sakata R, Akahoshi M. Radiation dose associated with renal failure mortality: A potential pathway to partially explain increased cardiovascular disease mortality observed after whole-body irradiation. *Radiat Res* 2012; 177(2):220-8)。

9. 香港大学との共同研究

以前放影研に Beebe フェローとして来所し、現在は中国の香港大学整形外科・災害外科学部に在籍の研究者と共同で、軟部組織肉腫への放射線の影響に関する論文が発表された (Samartzis D, Nishi N, Cologne JB, Funamoto S, Hayashi M, Kodama K, Miles EF, Suyama A, Soda M, Kasagi F. Ionizing radiation exposure and the development of soft-tissue sarcomas in atomic-bomb survivors. *J Bone Joint Surg Am* 2013; 95:222-9)。

10. 米国モンロー郡公衆衛生局との共同研究

以前放影研に Beebe フェローとして来所し、現在は米国ニューヨーク州ロチェスター市モンロー郡公衆衛生局副局長である研究者と共同で、食道がんと胃がんの経年傾向および食道がんと胃がんに対する電離放射線の影響に関する論文を作成中である。

11. 放影研主催の国際会議（詳細は「ワークショップ報告」の項参照）

- 1)「重建築遮蔽に関する放影研国際ワークショップ」を広島研究所で開催（2013 年 2 月 4-5 日）。
- 2)「放射線と心血管疾患に関する国際ワークショップ」を広島研究所で開催（2013 年 2 月 5-6 日）。
- 3)放影研国際ワークショップ「放射線影響研究所におけるポストゲノム時代の放射線研究」を広島研究所で開催（2013 年 3 月 7-8 日）。